

**2005年に北海道で発生した森林昆虫**  
 HOPPOH RINGYOU

う え だ あ き ら 1) は ら ひ で ほ 2)  
**上田明良・原 秀穂**

2007.3.20  
 受 理

**はじめに**

北海道内における2005年の森林昆虫の発生状況をとりまとめたので報告する(表-1, 2)。本報告の情報は、北海道水産林務部森林整備課が収集したデータ、森林総合研究所北海道支所と北海道立林業試験場が行なった調査および読者から直接いただいた情報による。森林総合研究所森林病虫害データベース(ホームページアドレス：<http://150.26.105.86/index.htm>, ユーザー名：AllUser, パスワード：alluser)については、残念ながら2005年に北海道から寄せられた情報はなかった。このデータベースはどなたでも閲覧可能

であるが、ウェブ上での情報入力には予め個別のユーザー名とパスワードの取得が必要なので、事前に当該都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者に連絡されたい。また、従来の専用ハガキでの情報提供も随時受け付けている。ハガキをお持ちでない方は、森林総合研究所および都道府県の森林・林業試験研究機関の保護担当者または(財)林業科学技術振興所に連絡をいただきたい。読者からのなるべく多くの情報提供を切望している。本報告に先立ち、発生情報をお寄せ頂いた関係各位にお礼申し上げる。

表-1 2005年所管別トドマツオオアブラムシとエゾマツオオアブラムシの発生状況

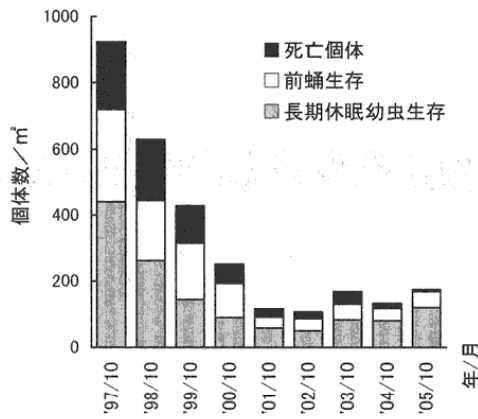
所管	トドマツオオアブラムシ		エゾマツオオアブラムシ	
	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)	被害区域面積(ha)	防除面積(ha)
国有林	263.78	40.13	337.64	44.01
道有林	78.40	78.40	363.36	363.36
民有林	15.75	15.75	19.55	19.55
合計	357.93	134.28	720.55	426.92

表-2 2005年に発生した森林昆虫(トドマツオオアブラムシ・エゾマツオオアブラムシは除く)

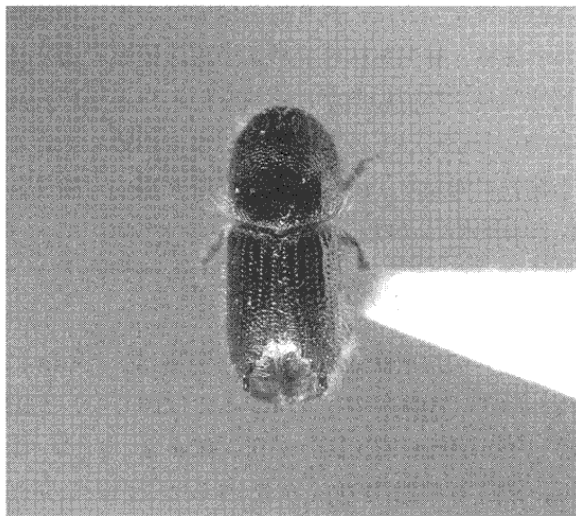
昆虫名	加害樹種	発生地(市町村)	発生区域面積(ha)	備考
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	豊浦町	191.86	
		社警町	335.57	
		伊達市	223.16	
		登別市	1.00	
		白老町	6.72	
		静内町	140.10	
		浦河町	245.08	
		様似町	80.60	
カラマツオオアブラムシ	グイマツ	南富良野町	7.20	
カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	穂別町	0.50	
		斜里町	0.04	
		津別町	0.10	
		浦幌町	40.64	
ヤツバキクイムシ	エゾマツ	富良野市	5.00	約60本の大径木が枯死

**2005年の発生の特徴**

カラマツ食葉性昆虫の総発生面積は1,224haに達したが、2004年の1,280haとほぼ同じで、2003年の3,730ha、2002年の5,000haより少なく、2001年の23,000haと比べると明確に少なかった(尾崎・原, 2004, 上田ら, 2004, 2005, 上田・原, 2006)。種別にみると、2004年にみられたハバチ類3種の被害のうち、カラマツハラアカハバチの被害だけが2005年にもみられた。本種の最初の大発生は、今回と同じ胆振・日高地方であるが異なる地域(苫小牧市, 厚真町, むかわ町, 安平町)で記録されていて、1977~1984年の8年間に128~2,830haの面積でみられた(伊藤ら, 1997)。その後道南で1995~2002年の8年間に660~4,880haの被害が発生した(上田・原, 2006)。今回の被害は2年目であり、近年の被害はいずれも8年間続いたことと、被害面積が昨年の2倍になっていることから、今後増加し継続する可能性がある。他のカラマツ食葉性昆虫の被害として、千歳市でニホンアカズヒラタハバチの成虫が大量発生したという情報が寄せられたが、森林被害としての報告はなかった。なお、2004年に弟子屈町を中心に570haの被害が発生したニホンカラマツヒラタハバチについては、2005年は被



図一 弟子屈町固定調査地におけるニホンカラマツヒラタハバチの秋の土壤中の個体数密度の推移 (北海道立林業試験場・東京農大学生物生産学科共同調査結果)



写真一 カラマツヤツバキクイムシの成虫

害報告がなかった。この害虫は1999～2001年にかけて6,000～16,000haの広域に発生したが、それ以降の被害はわずかである(上田・原, 2006)。しかし、土壤中の個体数密度は比較的高い値を維持しているので(図一),引き続き注意していただきたい。

カラマツヤツバキクイムシ(写真一)による被害のほとんどは浦幌町で生じた。本種の被害は前年(2004年)も同じ十勝地方の池田町を中心に15haでみられ、被害地は2002年10月の台風21号による大規模な風倒被害が発生した場所であった。本種による被害は、風倒木や伐採後放置された丸太・太枝で増殖した個体群が生立木にも加害するようになることで生じることから、風倒や伐採の2～3年後に発生することが知られている(上田, 2006)。本種に近縁で、トウヒ類を加害するヤツバキクイムシによる被害も富良野市で生じた

(井口和信, 東京大学北海道演習林私信)。被害地は、1981年の風倒被害地で、残存していたエゾマツが被害にあった。被害地ではこの数年に風倒や伐採はなかったが、近くの林分で2004年に伐採が行われたことから、そこで増殖した個体による被害の可能性がある。洞爺丸台風と匹敵する勢力をもった2004年9月の台風18号は、樽前山山麓(苫小牧市, 千歳市)を中心に北海道の各地で大規模な風倒をもたらした。このとき生じたカラマツやトウヒ類の風倒地では、2006年以降ヤツバキクイムシ類による被害が生じると予測されていることから(上田, 2006),今後注意が必要である。

カラマツ以外では、カラマツに近縁なグイマツで吸汁性昆虫であるカラマツオオアブラムシの被害が発生した。本種はカラマツ・グイマツの枝や細い幹に群生する体長約4mmの茶色～黒色のアブラムシである。幼齢木によくみられ、本種により木が枯れることはほとんどないことから、ふつう防除を必要としないが、樹勢が著しく衰弱しているときは薬剤等による防除が必要である(井上, 1962; 滝沢, 1994)。このほか、宗谷、後志、留萌で広葉樹にナミスジフユナミシヤクなどシヤクガ類の食害が発生したという情報が寄せられたが、くわしい被害状況の報告はなかった。

(<sup>1</sup>森林総合研究所北海道支所, <sup>2</sup>北海道立林業試験場)

### 引用文献

- 井上元則(1962)カラマツを害するアブラムシの研究. 林業試験場研究報告, 139:135-161, pls.1-5
- 伊藤賢介・福山研二・東浦康友・原秀穂(1997)1996年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 49:224-227.
- 尾崎研一・原秀穂(2004)2001年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 56:34-36.
- 滝沢幸雄(1994)カラマツオオアブラムシ. 小林富士雄・竹谷昭彦編著「森林昆虫」, 408-409, 養賢堂, 東京.
- 上田明良(2006)大規模風倒後のヤツバキクイムシ類による生立木被害とその予防法-2004年18号台風とこれまでの台風の比較-. 日森林北海道支論, 54:156-159.
- 上田明良・尾崎研一・原秀穂・石濱宣夫(2004)2002年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 56:85-86.
- 上田明良・尾崎研一・原秀穂・石濱宣夫(2005)2003年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 57:64-65.
- 上田明良・原秀穂(2006)2004年に北海道で発生した森林害虫. 北方林業, 58:149-150.